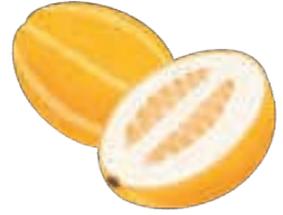


家庭菜園相談室

今月の
テーマ

マクワウリはメロンの仲間



さわやかな甘みで、熟したものを冷やしてそのまま食べる夏の定番野菜です。
ネットメロンなどに比べて栽培が簡単で、家庭菜園にもおすすめです。

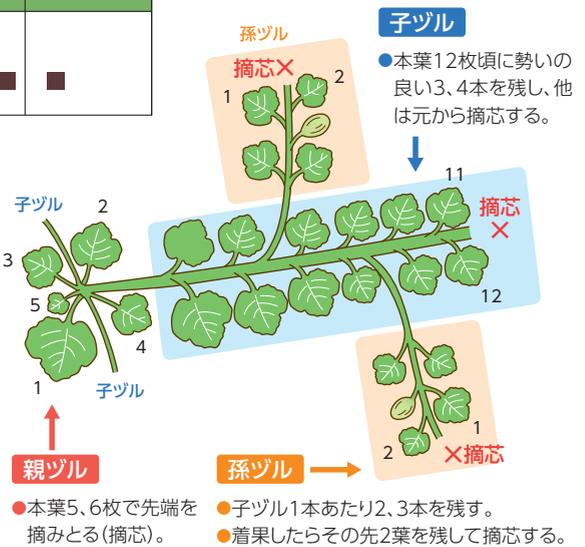
図1 作型目安

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
マクワウリ	● ●	▲ ● (直播き)	▲	—	■ ■	■ ■ ■

● 種まき ▲ 植え付け ■ 収穫

栽培のポイント

- 高温性なので、早まきは避けて苗づくりをしましょう。6月植え付けの場合は、苗を購入します。
- 孫ヅルに実が付くので、タイミングよく整枝・摘芯をし、実の付きを良くしましょう。
- マクワウリは連作ができません。最低でも前作から3年は間隔を開けましょう。
- 育てやすい品種は、「甘露マクワウリ」「黄金マクワウリ」「網干メロン」などがあります。



畑の準備： 植え付けの2週間前に苦土石灰 $100\text{g}/\text{m}^2$ と油粕 $100\text{g}/\text{m}^2$ を施し、深さ 30cm 位までよく耕します。植え付けの1週間前には堆肥 $5\text{kg}/\text{m}^2$ と化成肥料(N:P:K=8-8-8) $100\text{g}/\text{m}^2$ を施しよく耕します。栽植密度は畝幅 $80\sim 100\text{cm}$ 、高さ 15cm 、株間 $80\sim 100\text{cm}$ 以上を確保します。

植え付け： 本葉4~5枚(今回はポット苗)で畝に植え付けます(茎がしっかりしており節間が詰まった緑の濃いものが良い苗です)。ポット苗を水に浸してから、根鉢を崩さないように丁寧に抜き取り、先に掘っておいた穴に苗を入れ、根元に土を寄せ軽く押さえます。植え付けたら根付くまではたっぷり水やりをします(接木苗の場合は、継いだ部分が土に埋まらないように注意します)。

敷きわら： 葉が茂ってきたら、株元からヅルが伸びる方向に敷きわらをします。ヅルがワラに巻きひげを絡ませて伸長するので、地表に固定されて風にも強くなります。また、実の下にワラや刈草を敷いておくことで、病害虫の予防にもなります。

整枝・摘芯： 果実をたくさん収穫するには、ヅルを整枝して孫ヅルを発生させるのがポイントです。
※ヅルの整枝が遅れると、次々にヅルが出て分らなくなるので適時行いましょう。

追肥： 花が咲いたら1回目の追肥、孫ヅルに実が付いたら2回目の追肥を行います。それぞれ化成肥料(N:P:K=8-8-8)を各回 $20\text{g}/\text{m}^2$ 程度施します。過肥にならないように生育の状態を見ながら行います。

人工授粉： 確実に結実させるために、人工授粉を行います。晴天の早朝、9時までに済ませるのがコツです。その日に咲いた雄花を取り、その日に咲いた雌花に雄しべをこすりつけて受粉させます。受粉後約45日で収穫できる大きさになります。

摘果： 果実がピンポン玉大になったら形の悪いものを取ります。残す玉は1株に8果程度(孫ヅル1本に対し1果)を目標とします。

病害虫： マクワウリに発生しやすい代表的な病虫害は、うどんこ病、べと病です。アブラムシが発生するとウイルス病も発生しますので定期的に防除します。また、苗を植え付けた直後からウリハムシが葉を食害し始めるので、アンドンをかけて防ぎます。葉ネギなどを一緒に植えるとヅル割れ病の発生を抑える効果があります(コンパニオンプランツ)。

収穫： 黄色の黄金マクワウリなら実が黄色く、ほのかに甘い匂いがしてきた頃です。緑色の駒マクワウリなら、縦に筋模様が入ってきた頃が収穫適期です。マクワウリは完熟になると、ヅルの付け根周りに輪状のひび割れができてきます。このタイミングが、最高に甘みがのっている時です。

家庭菜園に関する相談は、営農経済センターのTAC(タック)までご連絡ください。